

- 1 **題材名** カリンバの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくろう（4時間）
教材名 表現（創作）「ハ長調の音階を使ってまとまりのある旋律をつくろう」

2 題材について

《学習指導要領との関わり》

- A表現（3）創作 ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫すること。
 イ 次の（イ）について、表したいイメージと関わらせて理解すること。
 （イ）音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴
 ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けること。
 [共通事項]（1）ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。
 リズム、速度、旋律、構成、テクスチャ

(1) 題材観

本題材は、カリンバを使った創作活動を通して、自分の思いや意図を豊かに表現するために、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、表したいイメージと関わらせて創作表現を創意工夫することをねらいとしている。

中学校3年間の中で、合唱は式典や学校行事で欠かせないものであり、そのため音楽の学習において歌唱の占める割合は大きい。歌唱と比べると、器楽や創作や鑑賞等は年間計画の中でも取組が弱くなっていることが現状である。創作活動では、1年次は反復、変化、対照など構成上の特徴を表したいイメージと関わらせて理解できるように、リズムカードを用い太鼓のリズムを創作した。2年次は、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能が身に付くように、電子キーボードを用い旋律の創作を行った。ここでは、自分が創作した曲を正しいリズムや音程で拍通りに表現することにつまずく生徒が多く見られた。このように、創作活動の機会の少なさやキーボードの鍵盤の配列等、音楽的知識が乏しい生徒にとって創作は易しいことではない。今回は2年次の反省を生かし、これまでの中学校音楽科における歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習で身に付けたことを総合的に働かせながら、イメージをもとに旋律づくりに取り組ませる。

本題材「ハ長調の音階を使ってまとまりのある旋律をつくろう」は中学校2、3下に掲載されている内容であり、ここには「つくった旋律を歌ったり、楽器で演奏したりして、音の動きを確かめながらつくろう」と記されている。今回の授業では、2年次につまずきが生じ、もともと経験値に差がある電子キーボードではなく、一斉にスタートできるという魅力をもつカリンバを使用する。カリンバとは、音を共鳴させるための箱や板に固定された細い金属棒を指で弾いて演奏するアフリカを代表する民族楽器である。主に親指で弾いて演奏するため「親指(サム)ピアノ」という名称でも呼ばれ、材質やキーの数、並び方などに法則がなく、世界には様々な種類のカリンバが存在する。手のひらに収まる大きさなので場所を取らずに手軽に奏でることができ、一人一台の楽器を使用することによりコロナ禍でも安全に授業に取り入れることができる。また、手から直に心地よい音の振動が伝わり、オルゴールのような優しい音色が鳴るので、音楽の素材となる音に関心をもち、その良さや美しさなどの質的な世界を価値あるものとして感じることもできると考えた。

本題材に取り組むことで、音階の特徴や音のつながり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解し、その知識を生かしながら創作表現を創意工夫することができると考えた。また、つくった旋律をすぐに五線紙に書き写すのではなく、グラフィックな方法で記録することによって、音高を感じながらスムーズに学習を進めることも工夫していきたい。

間もなく義務教育を終える3年生が、本題材を通しその後の人生において、音や音楽、音楽文化と主体的に関わり、心豊かな生活を営むことにつなげられればと思う。

(2) 指導観

中学校3年間で音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情が育めるように努めてきた。今回は、美術科の卒業制作と連携し、美術科でカリンバの製作を行い、音楽科で本授業を行った後、再度美術科で創作した旋律からイメージされるデザインをカリンバに施す計画になっている。

本題材では、ハ長調の音階を使い、和音の働きに合わせて旋律をつくる。旋律のテーマは、これから

受験という人生で初めて進路の選択を行う中学3年生という立場と、聴けば誰もが心が落ち着く音色のカリンバの特性を生かし、「やる気の出ない自分を奮起させる旋律」や「イライラを抑える癒しの旋律」など、自分の心情に沿ったテーマを自分自身で考えさせることにする。表現のもとになるイメージや心情をできるだけ明確にさせ、即興的に鳴らした音や、偶然にできた音楽についても音楽的な要素の働きを知覚・感受し、自分にとっての意味を意識させたい。このように、音や音楽と生活や社会との関わりについて考えることによって、音楽表現を創意工夫したり音楽を解釈し評価したりするなど学習の深まりを図る。

第1時では、アフリカ・ジンバブエに住むショナ族が祭礼や儀式の時に先祖の霊やスピリットとの交信をするために使用されていたカリンバの歴史に触れ、音楽の多様性について理解をしていく。また、タブレット PC（ギガタブ）を使用しハ長調の調律を行った後、音楽を構成する音の階層づけをするべく、全体でベース音を奏で、同時に奏法も安定させる。また、次の授業へのヒントとして上行や下行、速度の変化を付けることで、自分の思いの表し方を提示し、共通理解を図る。

第2時では、創作する旋律のテーマを決め、そのテーマや表したいイメージに近付くために「共通事項」のリズム、速度、旋律、構成、テクスチャを思考・判断の根拠として適しているものを選択していき、思いや意図を音楽で表現できるようにする。前時のヒントを生かし「気持ちの盛り上がり表現するためには上行形を使用する」「癒しの旋律を創るために速度を落とす」等、適した共通事項を表したいイメージと照らし合わせながら創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な要素を各自で選択していく。また、記譜をすることに苦手意識をもっている生徒も多いため、つくった旋律をすぐに五線紙に書き写すのではなく、グラフィックな方法で記録することを前段階として取り入れ、生徒の思考がスムーズに流れるように創意工夫する過程を大切にしていきたい。

第3時では、前時に創作した旋律をグループで中間発表し合う時間を設ける。各自付箋を用い、グループ内でアドバイスをし合いながら自分の考えを広めたり深めたりする場面をつくる。他者の旋律を聴くことによって喚起されたイメージから発想を得て、表したいイメージを膨らませながら、自分のつくった旋律をさらにより良いものにするために試行錯誤するきっかけとしたい。表したいイメージと音楽の構造（音楽を形づくっている要素の使い方や、音楽を特徴づけている要素と音楽の仕組みとの関わり合い）の関係が捉えられるよう、適切に価値付けたり具体的に助言したりすることで、知識及び技能、思考力、判断力、表現力等の育成につなげていく。また、ここで余裕のある生徒は五線紙に記譜をしていく。

第4時では、前時の中間発表後から変容を遂げた旋律を全体で発表していく。創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付け、創作で表せることができるよう支援する。この活動を通して、学習の過程において生徒個々の感じ方や考え方に応じ、既習の知識と新たに取得した知識等が結び付き、その後の学習や生活においても活用できるようになってほしいと考える。

3 題材の目標

- 音階の特徴及び音のつながり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付ける。（知識及び技能）
- リズム、速度、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、表したいイメージと関わらせて創作表現を創意工夫する。（思考力、判断力、表現力等）
- 和音の動きと旋律との関係や、音階の特徴及び音のつながり方の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組む。（学びに向かう力、人間性等）

4 評価規準 ※評価略記号 知識・技能 知 技 知技

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①知音階の特徴及び音のつながり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。	①リズム、速度、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのようにイメージと関わらせて表すかについて思いや意図をもっている。	①和音の動きと旋律との関係や、音階の特徴及び音のつながり方の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。
②技創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付け、創作で表している。		

5 研究の視点

【視点1】9年間を見通した学び方の共有

①「思い」をもたせるための手立てと思いを「意図」につなげるための手立て

9年間を通じて、小学校で学ぶ「音楽づくり」の学習が深まっていくようにするため「どのような手立てで思いや意図をもたせるか」という視点で手立てを講じた。どのような学習段階であっても同じ視点で手立てを講じることによって、思いや意図をもって音楽をつくるという創作の目的に向かった学習を展開することができると考えた。

本題材では創作のテーマを自身の心情に寄り添うものに設定し、順序立てて要約できるようステップチャートを用いる。表したいイメージや感情「思い」を創作表現として創意工夫する「意図」のために、「見通しをもつ」「既習を生かす」「選択する」「比較する」などの活動を位置付ける。

②音楽を視覚化する

記譜をすることに苦手意識をもっている生徒も多く、活動の重点を創作におくために、つくった旋律をすぐに五線紙に書き写すのではなく、前段階として音符を用いらずにグラフィックな方法で記録し、生徒の思考がスムーズに流れるよう創意工夫する過程を大切にする。

【視点2】音楽的な見方・考え方を働かせるための効果的な指導の手立て

①「思い」や「意図」を広げるための中間発表の場面の設定

第2時で表したいイメージからどの要素を選択することが望ましいかに着目させ、第3時では他者の演奏を聴いて気付きを得て、自分の演奏に生かしていけるようグループで共有する場面を設ける。発表の際は、自分の「思い」と「意図」を伝えてから演奏する。また各自付箋を持たせ、他者の演奏にアドバイスを書き記すこととする。教師は各グループを見回す際に、それぞれの演奏の工夫やよさについて価値付けることで自分の演奏のよさに気付かせていき、思いや意図を明確にさせたい。

②ICTの活用

音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組めるよう、メトロノームやチューナーはタブレットPC（ギガタブ）を使用する。

【視点3】評価の在り方

本時では、リズム、速度、旋律、構成、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、表したいイメージと関わらせて創作表現を創意工夫することをねらいとしている。そこで、評価規準として「思いや意図をもってつくった旋律がより良くなるよう[共通事項]を1つ用い創意工夫する姿」をB規準として設定する。そのために「思い」を「意図」につなげるための選択の場面の設定し、表したいイメージと音楽の構造(音楽を形づくっている要素の表れ方や、音楽を特徴づけている要素と音楽の仕組みとの関わり合い)の関係を捉える活動を通して、思考・判断・表現している生徒の姿を見取りたい。

①創作表現を創意工夫している様子から見取る

全体を観察しておおまかにBの生徒を確認する。その後つまずきの予想される生徒に留意しながら、自分の表したいイメージからどのような音楽の要素を選択していくのか、自分の考えを整理しながら創作できるよう支援していく。

②ワークシートから見取る

毎授業の最後に、今日の学習の振り返りをワークシートに書かせる。その際、一人一人の思考がわかるようにポイントを絞って記述させる。また創作の過程は記録が残るよう、自分の表したいイメージからどのような音楽の要素を選択していくか、順序立ててワークシートに記入できるようにしていく。ここでは観察では見取れなかった生徒の思考を評価し、ワークシートの記述や観察での見取りをもとに、表したいイメージを既習内容と関わらせて理解し、その知識を生かしながら創作表現を創意工夫できているか見取りたい。

【コロナ対応として】

- ・一人一つ自分専用の楽器（カリンバ）を使用する

6 題材の指導計画及び評価計画（4時間扱い）（本時3/4）

次	時配	◎ねらい　○学習内容　・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素、 （音符、休符、記号や用語）〕	○教師の働きかけ ・目指す児童（生徒）の姿	評価規準 （評価方法）		
				知 技	思	態
◎カリンバについて理解を深め、音階の特徴及び音のつながり方の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら学習活動に取り組む。						
第一次	第一時	○カリンバの歴史を知る。 ・スライドを見ながらプリントに記入する。 ○楽器をハ長調に調律する。 ・タブレットPCのチューナー機能を使用し、個々で調律していく。 ○全体でベース音を練習する。 ・奏法を理解する。 ☆〔リズム、速度〕 ○自分の想いの表し方を全体で共有する。 ☆〔リズム、速度、旋律、構成、テクスチャ〕	○生徒の興味・関心を引き出せるようカリンバについて説明する。 ・ワークシート【1時間目】に書き写す。 ○机間指導をし、調律が進んでいない生徒には、個別に支援をする。 ・生徒同士で教え合う。 ○拍が明確になるよう、メトロノームを使用する。 ・生徒同士で確認し合う。 ○上行や下行、速度の変化を提示し、どんな想いがするか生徒の意見を引き出す。 ・自分の考えを発表する。			
◎リズム、速度、旋律、構成、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのようにイメージと関わらせて表すかについて思いや意図をもって創作する。						
第二次	第二時	○前時の復習をする。 ・音程や奏法を確認する。 ○創作テーマを決める。 ・表したいイメージと音楽要素を関連付けて考えていく。 ○各自で創作活動を進める。 ・音を出しながら、表したいイメージに近づけるよう創意工夫していく。 ☆〔リズム、速度、旋律、構成、テクスチャ〕 ○ワークシートに旋律を書き写す。	○前時の授業が思い出せるよう問いかけをする。 ○音程に留意する。 ○前時の具体例をもう一度提示し、表したいイメージを膨らませる。 ・ワークシート【2．3時間目】に記入する。 ○表したいイメージと音楽要素(リズム、速度、旋律、構成、テクスチャ)を関連付けて考えることができるよう声掛けをする。 ○机間指導をしながら、創作が進んでいない生徒には声掛けをする。			
◎表したいイメージと音楽の構造(音楽を形づくっている要素の表れ方や、音楽を特徴づけている要素と音楽の仕組みとの関わり合い)の関係を捉え、思いや意図をもってつくった旋律がより良くなるよう創意工夫をする。						
	第三時 (本時)	○前時の復習をする。 ・音程や奏法を確認する。 ○つくった旋律と工夫点をグループ内で発表し合う。 ・発表者は自分の思いや意図、表現の工夫を伝えてから演奏する。鑑賞者はその演奏に対し、付箋にアドバイスを書いて、相手に渡す。	○前時の授業が思い出せるよう問いかけをする。 ○音程に留意する。 ○発表の流れを説明する。 ・思いや意図、表現の工夫を説明してから、つくった旋律を演奏していく。 ・音楽の特徴をもとに、付箋を用いながらアドバイスを伝え合う。 ・ワークシート【2．3時間目】に貼る。	①知 (記述・発言)		

		○創作活動を進める。 ・音を出しながら、表したいイメージに近づけるよう創意工夫していく。 ☆〔リズム、速度、旋律、構成、テクスチャ〕	○表したいイメージと音楽要素(リズム、速度、旋律、構成、テクスチャ)を関連付けて考えることができるように支援する。 ○遅れている生徒には、ポイントを絞りながら説明し、個別に支援をする。			
◎創作表現を創意工夫した旋律を発表し合い、他者の演奏の良さや美しさを味わって聴く。						
第三次	第四時	○前時の復習をする。 ・音程や奏法を確認する。 ○つくった旋律の最終確認をする。 ・音を出しながら、表したいイメージに近づけるよう創意工夫していく。 ☆〔リズム、速度、旋律、構成、テクスチャ〕 ○全体で発表する。 ・他者の演奏を聴いて、気づいたことや感じたことをワークシートに記入していく。	○前時の授業が思い出せるように問いかけをする。 ○音程に留意する。 ○発表に向け、表したいイメージと音楽要素を再度確認させる。 ○旋律の違いや面白さに気付かせるよう助言していく。 ・思いや意図を説明してから、つくった旋律を演奏していく。 ・ワークシート【まとめ】に記入する。	② 技 (演奏聴取)	① (記述・発言・観察)	① (観察・記述・発言)

7 本時の指導（3／4）

(1) 本時の目標

表したいイメージと音楽の構造(音楽を形づくっている要素の表れ方や、音楽を特徴づけている要素と音楽の仕組みとの関わり合い)の関係を捉え、思いや意図をもってつくった旋律がより良くなるよう創意工夫をする。

(2) 本時の展開

時配	学習内容・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素 (音符、休符、記号や用語)〕	○教師の働きかけ・目指す児童（生徒）の姿 ◇評価規準（評価方法） ＊コロナ対応（場の設定や支援、配慮事項等）
5分	1 音程の確認をする。 ・タブレットPCのチューナー機能を使用し、調律が必要なら行う。 ・全体でベース音を奏でる。	○音程に留意するよう声掛けをしながら、机間指導をする。 ＊一人一台自分のカリンバを使用する。 ・自主的に調律を進める。 ・拍に留意しながら演奏する。
10分	2 前時の活動内容を振り返る。 ・音楽要素を共通理解する。 ☆〔リズム、速度、旋律、構成、テクスチャ〕	○前時の学習内容が思い出せるように、板書や掲示物を工夫する。 ○表したいイメージと音楽要素を関連付けて考えることができるように説明する。
	3 本時の目標を知る。	
	友達からアドバイスをもらい、よりテーマに沿った旋律になるように工夫しよう。	
20分	4 つくった旋律と工夫点をグループ内で発表し合う。 ・思いや意図、表現要素を説明してから創作曲を演奏する。	○発表の流れを説明する。 ○机間指導し、アドバイスをする。 ・創作した旋律からテーマが感じられるかに留意して他者の曲を聴き取っている。 ・音楽の特徴をもとに、付箋を用いながらアドバイスを伝え合う。
10分	5 グループ内で学んだことを、自分の創作曲に生かしながら、再度自分の創作曲を見直す。	○表したいイメージと音楽要素を関連付けて考えることができるように支援する。 ◇リズム、速度、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのようにイメージと関わらせて表すかについて思いや意図をもっている。（思考・判断・表現） 〈ワークシートの記述・発言〉
5分	6 振り返りを記入し、授業のまとめをする。 ・友達のアドバイスから学んだことを発表し、全体で共有する。	○本時の目標の確認をする。 ・ワークシート【2. 3時間目】の感想欄に、アドバイスを受けて改善したことを記入する。 ○次週の授業の流れを説明する。